

(別添3)

【海士町】
校務DX計画

1. 校務DXを推進する上での現状と課題

「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」における自己点検の結果、以下の現状がみえた。

1) 校務DXを推進できていること

- ・教育委員会主催の研修をハイブリッドで実施
- ・教育委員会が学校に発信する通知や調査を、クラウドサービスを用いて共有、実施、集計することによる情報共有の確実化と負担削減
- ・クラウドサービスのアカウントを教育委員会職員と全校教職員に配付し、教育委員会と学校、学校間などのやり取りが可能になっている
- ・押印の廃止や各種手続きのペーパーレス化を進めている

2) 課題

- ・クラウドサービスを十分に活用した校務DX化まで取り組めていない
- ・教育情報セキュリティポリシーを教育委員会独自に策定できていないため、自治体のセキュリティポリシーを準用している
- ・校務用の端末について、セキュリティ対策を強化できておらず、学校外において業務が可能なロケーションフリー化まで取り組めていない
- ・クラウド環境を学校外で使用した際の適切な勤怠管理・勤務時間管理等の仕組みが整っていない

2. 校務DXを推進するための課題解決策

まずは、クラウドサービスの積極的な活用を図るため、各種サービスやツールの研修を計画し、実施する。また、教育委員会と各校のICT担当で構成する組織を中心に、授業で活用できるツールに関して情報共有し、校内での活用の推進を図る。

他にも、教育情報セキュリティポリシーを教育委員会独自に策定し、その際併せてセキュリティ対策の強化も検討する。セキュリティ対策を高めた上で、校外で業務が可能な環境の構築を実施したい。

3. 次世代校務DX環境の整備について

令和5年3月に文部科学省が取りまとめた「GIGAスクール構想の下での校務DXについて～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指して～」において方向性が示された「次世代校務DX」環境（ロケーションフリーでの校務実施、ダッシュボード上での各種データの可視化を通じたきめ細やかな学習指導等が可能となる校務DXの在り方）を目指し、必要な環境整備について今後、県内の市町村教育委員会等とも連携しながら、検討を進める。